

Once upon a time in Utsunomiya

一枚の絵葉書から

石井敏夫コレクションより 第50回

改修された大通り。歩道が整備され、街灯、街路樹が見られる



大通り

いまでも昔も宇都宮駅から大谷方面に伸びる大通りが、宇都宮のメインストリートであることに変わりはない。市街中心地を東西に貫く通り沿いには、店舗や商業ビルが建ち並び、車の列が途切れることなく続いている。しかし、初めからいまのような直線道路であつたわけではなく、そこには幾多もの道路改修があつた。道の姿もまた町の歴史なのである。

現在ある大通りの原形が造られたのは一八八四（明治十七）年。その前年の十月三十日、栃木県令として着任した三島通庸によ

るものだった。それまでの通りは、上河原町から日野町、曲師町を経て池上町を通り材木町を結ぶという城下町特有の非常に屈曲した経路をたどっていた。材木町より西に道はなく、宮の橋もまだ架橋前だった。通庸はこの通りを、強権を持って改修。上河原から一直線に池上町と結んだのである。そのため裏通りであつた相生町や大工町では、拡張に伴う家屋の取り壊しも決して少なくなつたという。しかし、苦情、不服を唱えようものなら警官が

これを拘引、大工を引き連れ強引に軒先を退かせたというから並大抵の工事でなかつたことは容易に想像つく。しかもその費用は自弁。さらには宇都宮町民に対し、「二戸一人必ず服役すべし」と

の命令を下し、道路工事に従事させた。池上町や馬場町付近の坂を緩やかに改修したのもこのときである。（『宇都宮市史』）

この大工事によつて幅十間（十八メートル）の新道が開通。一八八五（明治十八）年七月の宇都宮駅開業後は、田川に宮の橋が架け



大正時代の大通り。通りを荷馬車が行く。右上の小山は二荒山神社

られ駅と中心街を結ぶ文字通り「大通り」が完成した。この通りは宇都宮の幹線道路であるとともに、東京と東北を結ぶ主要道路として八五年十二月、内務省告示第六号により国道六号に指定された。現在の国道四号と改称されるのは、一九二〇（大正九）年からのことである。

大通り（上河原町〜新石町〔現伝馬町〕）の舗装改修工事は、一九三一（昭和六）年四月十六日に着工し、十二月に完成。歩道が造られ、街灯、街路樹も設けられた。『宇都宮市史』によれば、使用セメント四四七〇袋、作業員四万一千百五十五人、総工費九万四千七百円と記されている。花房町から一条町を経て池上町を結ぶ新国道が開通したのは、一九三二（昭和八）年のことだった。